

カルメル

靈性センターニュース



2026年3月

428号

## 目次

目次	1
四旬節講話のお知らせ	2
心の泉	4
カルメル会の企画案内	24
東京	25
京都	27
名古屋	29
諸所の企画案内	30
霊性センターニュース郵送終了のお知らせ	33
あとがき	34

十字架の聖ヨハネの列聖 300 周年、及び博士号 100 周年記念

## 「21世紀における十字架の聖ヨハネ」

第 1 回 2 月 22 日（四旬節第 1 主日）

「十字架の聖ヨハネへのまなざし——教会博士宣言 100 周年にあたって」  
鶴岡賀雄（東京大学名誉教授）

第 2 回 3 月 1 日（四旬節第 2 主日）

『十字架の聖ヨハネにおける“美の道”についての考察』  
松田浩一神父

第 3 回 3 月 8 日（四旬節第 3 主日）

十字架の聖ヨハネ：愛と「<sup>よろこび</sup>歡喜」の詩人  
—幼きイエスのマリー=ユジェーヌ神父と共に—  
片山はるひ（上智大学教授：ノートルダム・ド・ヴィ会員）

第 4 回 3 月 15 日（四旬節第 4 主日）

21 世紀・靈性の時代の十字架の聖ヨハネ 中川博道神父

第 5 回 3 月 22 日（四旬節第 5 主日）

まことの幸い—十字架の聖ヨハネの説く愛と信仰の道—  
九里彰神父

- ・ 会場：カルメル修道会 上野毛修道院 聖堂
- ・ 開始時間：14：00 講話後 当日のミサがあります。
- ・ 後日オンラインでもご視聴いただけます

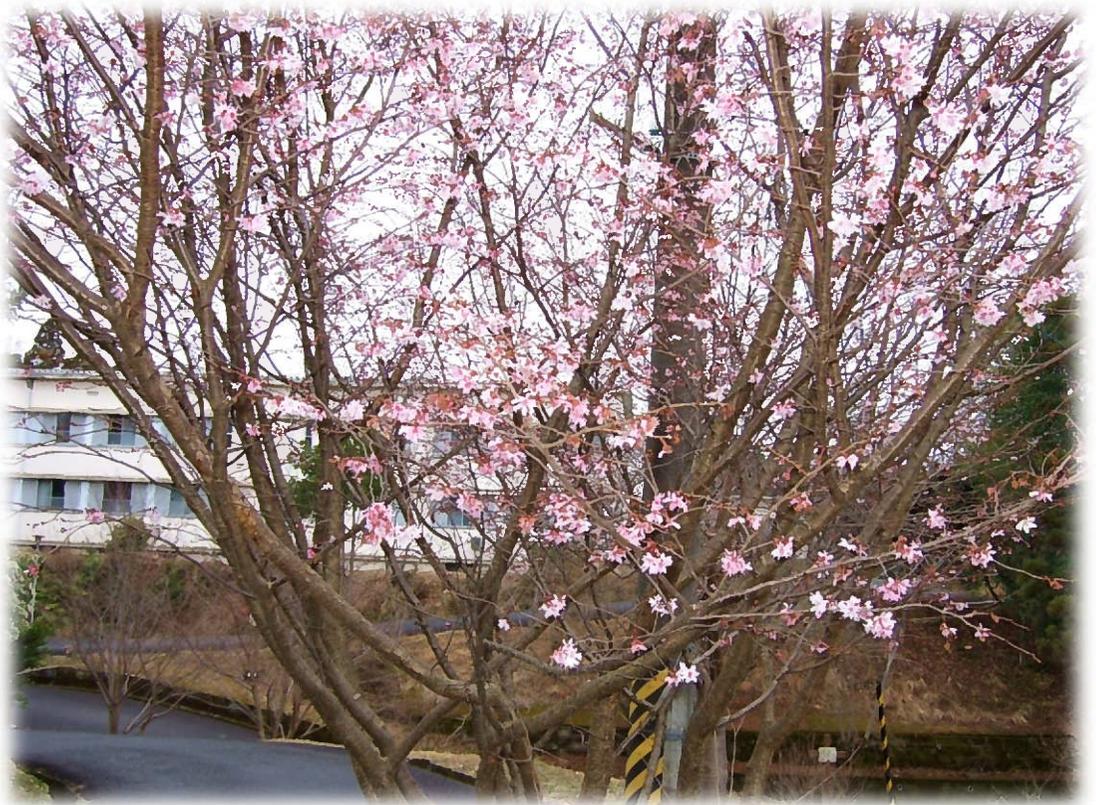
アクセスコード URL

<https://www.youtube.com/@カルメル修道会>

主催：カルメル修道会



# 心の泉



宇治カルメル会修道院



## 第四巻 聖体拝領への信心の勧めはここにはじまる

### 第十五章 敬虔の恵みは、謙遜と放棄によって得ることができる

#### 4 自分だけを見つめない!

その時、彼は、「永遠を眺めるに足る者となり、霊の賜物を豊かにいただき、心は広がり、驚嘆に満たされる」(イザヤ 60・5)。「主のみ手は彼と共にあり」(エゼキエル 3・14、ルカ 1・66)、世々に彼は主のみ手にゆだねられる。「心をこめて神を求め」(詩編 119・2)、霊魂という賜物をむだにしなかった者(詩編 24・4 参照は、こうして「神の祝福を受けるであろう」(詩編 128・4)。こういう人は、聖体を拝領して神と一致する偉大な恵みに値する者である。なぜなら、彼は自分の信心と慰めよりも、あらゆる信心と慰めを超えて、愛する神の光栄を求めているからである。》

### 第十六章 私たちの必要とすることをキリストに打ち明け、その恵みを願う

#### 1 子

《おお、私が今、熱心に拝領しようとするもっとも甘美な愛する主よ、あなたは、私の弱さ、私のみじめさ、また、私がどれほどの悪と罪におぼれているか、重荷を負い、いざなわれ、不安になり、汚れているかを、すべてご存じです。私は助けを願うためにあなたに近寄り、慰めと安らぎを乞い求めます。私は、私のすべてを知り、私の心の奥を見抜き、完全に私を慰め、助けてくださる唯一のお方に話しかけています。あなたは、私がどのような恵みを必要とし、いかに徳に乏しいかを知っておられます。》

#### 2 貧しい裸の姿

ごらんください。私は、貧しい裸の姿でみ前に立ち、恵みを乞い、あわれみを願います。飢えた物乞いに糧を与え、私の冷たさをあなたの火で燃やしてください。あなたの光で私の盲目を照らし、世間的なことすべてを苦いものに変え、辛いことやわずらわしいことを忍耐させ、この世のすべてを軽んじ、忘れさせてください。主よ、私の心を天のほうにあげ、この世でさすらいことのないようにしてください。今後、あなただけが私の慰めとなり、私の食べ物と飲み物、愛と喜び、完全なただ一つの宝なのです。

### 十字架の聖ヨハネの教え



十字架の聖ヨハネの教えの底には、  
 表面には必ずしも現れない神への渇き、  
 突き上げるような望みがあります。  
 通常 この点は強調されていませんが、とても大切です。  
 それはちょうどエンジンであり、神の息吹なのです。  
 どんなことがあっても、神へ向かいたい、  
 何にも妨げられないで、  
 神に到達したいと望む人のうちにある神の息吹、  
 すべてを乗り越えて 神へと向かう動きです \* 1

### 十字架の聖ヨハネを糧として

ああ！わたしのすべての希望が実現されたとは、  
 とても信じられません。  
 かつて、十字架の聖ヨハネの言葉を読んだとき、  
 聖人の言われることを わたしのうちで行ってくださるよう、  
 神さまに懇願しました。そして聞きいれられました！ \* 2



柔和な人とは、隣人を忍び、自分自身を忍ぶことを知る人である。

～十字架の聖ヨハネ～



テレーズはアニェス院長(次姉)に「四旬節の過ごし方」を聞かれ、  
 「<私は柔和で謙遜である、わたしに倣うものとなりなさい>  
 とのキリストの言葉を実行すること」と答えました。  
 それが四旬節と何の関係があるのか院長は戸惑ったと伝えられて  
 います。  
 いちばん忍び難いのは自分自身かもしれません。  
 このことに気づくと隣人はもっと忍びやすくなるでしょう。\* 3

- \* 1 福者マリー＝ユジェーヌ神父 ocd に導かれて  
 十字架の聖ヨハネの「ひかりの道を行く」伊従信子「編・訳」聖母文庫、聖母の騎士社
- \* 2 テレーズの言葉(帰天1か月前の9月30日)
- \* 3 カルメル誌 折々の言葉(5) 伊従信子

### レオ 14 世教皇の言葉③

**主が望まれるのは、名前も顔もない群集としての一致ではありません。  
主が望まれるのは、神の愛によって結ばれた、交わりとしての一致です。**

羊は、北海道など、牧畜の盛んなところ以外では、日本人にとってはなじみの薄い動物ではないでしょうか。たくさんの羊の群れを見ても、私たちにはどれもこれもみな同じような羊にしか見えないことでしょう。けれども、パレスチナの羊飼いは、一匹一匹に名前をつけて、自分の子供のように世話するのだそうです。

ご存じのように、イエスさまのたとえにも羊たちが登場します。

羊飼いは自分の羊の名を呼んで連れ出す。自分の羊をすべて連れ出すと、先頭に立って行く。羊はその声を知っているのだから、ついて行く。しかし、ほかの者には決してついていかず、逃げ去る。ほかの者たちの声を知らないからである。(ヨハ 10:3-5)

この羊の群れは、まさに私たちの教会共同体を指しています。その群れを導くまことの牧者は、イエス・キリストに他なりません。ですから、私たちは、この世の偽りの牧者の声ではなく、すべての羊たちを救おうとご自分の命を投げ出されたキリストの声に耳を傾けてゆかねばならないのです。さもなければ、一つの群れとなることは難しいでしょう。

主は最後の晩餐で、遺言のように新しい掟を残されました。

あなたがたに新しい掟を与える。たがいに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。互いに愛し合うならば、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、皆が知るようになる。(ヨハ 14:34-35)

良き牧者キリストの愛の内に、すべての羊の群れが一つとなって行くことができますように、聖霊の助けを願って、祈って行きましょう。(P. 九里)

P.S. 「レオ 14 世教皇の言葉」は、カルメル会の HP の「霊性センターニュース」にも掲載されています。「霊性センターニュース」とクリックしてください。

## 十字架の聖ヨハネの教え①

——『警戒の教え（カウテラス）』を中心に——

九里 彰 ocd

キリスト者としてどのように生きるべきか、特に靈的生活に関して、どのように捉えたら良いのか、よく分からないという人も多いのではないのでしょうか。

これから、中世末期のスペインのカルメル会士、教会博士でもある十字架の聖ヨハネ（1542～91）の教えを、同じカルメル会士として、簡単に？紹介してゆきたいと思います。

今まで私は、ヨハネのことについては、奉献生活者の黙想会や女子カルメル会の黙想会、カルメル在世会の黙想会や教会信徒の黙想会などで、たびたび取り上げてきました。或る著作を取り上げ、女子カルメルや在世会で定期的に講話をしたり、信徒との読書会も何度もやってきました。またカルメル会で細々と発行している靈性誌『カルメル』にも幾度となく執筆して来ました。今回は、金沢教会の『教会便り』で、大部の著作ではなく、邦訳の『小品集』（ドン・ボスコ社。現在は絶版？）に載っている『警戒の教え（カウテラス）』を取り扱いたいと思います。

その理由は、二つの理由からです。一つは実際的な理由と、もう一つは内容的な理由からです。第一の理由は、主要著作であれば、読者はテキストを手元に持っていないければ、私の話だけでは、ヨハネの論旨を理解することは困難だと思われるからです。それに対し、『警戒の教え』のテキストは短い（文庫本版で16頁）ので、『教会便り』でテキストを少しずつ紹介しながら説明ができるからです。

第二の理由は、彼の実践的な教えがこの中に凝縮されていると思われるからです。その靈性神学的な根拠を理解するには、四つの主要著作『カルメル山登攀』『暗夜』『靈の賛歌』『愛の生ける炎』を見なければなりません。そのような時間のない人々にとって、日々の実践的な教えとして、これにまさるものはないと思われるからです。

では、ご関心のある方は、来月からの連載を楽しみにしてください。

## 四旬節 第2主日 (A)

(マタイ17:1-9)

〔そのとき、〕イエスは、ペトロ、それにヤコブとその兄弟ヨハネだけを連れて、高い山に登られた。イエスの姿が彼らの目の前で変わり、顔は太陽のように輝き、服は光のように白くなった。…ペトロが話しているうちに、光り輝く雲が彼らを覆った。すると、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者。これに聞け」という声が雲の中から聞こえた。

## 【み言葉を黙想する】

四旬節第2主日は、「主のご変容」の個所が読まれます。イエス様が、単なる人間ではない、ということを示す出来事です。四旬節のテーマですので、「主のご復活」との関係を持っています。弟子たち、特にペトロの信仰告白の後に行われた主のご変容ですので、イエス様の意図がはっきりしています。ペトロの信仰告白において、イエス様は「ペトロの上に教会を建てる」と述べた後に、十字架の道行を言い始めると、そのペトロの抵抗にあいます。「サタン、引き下がれ！あなたは神のことを思わず、人間のことを思っている」。実に、宗教は人間の思いを超えたものに向かうものです。人間の世界では理解しがたい“神の思い”があります。そのため、神からのイエス様の使命と存在を弟子たちに示す必要があったのでしょう。

変容のお山で、弟子たちに神の言葉が与えられます。「これはわたしの愛する子、わたしの心に敵う者、これに聞け」とイエス様の言葉、神のことばを聞いて、十字架の道を歩むように論じています。じつに、第一朗読のアブラハムの召命も、神のことばを聞いて、信仰の道を歩み始めました。イエス・キリストの教えに耳を傾けて歩み始めるのが、「キリスト教信仰」の始まりです。

十字架の道は、死と隣り合わせの道であり、死と命との戦いの道です。この道をキリストの言葉を聞き従って歩むことによって、“永遠の命に至る”ように招かれています。そこは“神の国”と呼ばれます。マタイ福音書は、「神の国とその義を求めよ」と言われる福音書です。十字架の死と復活も、この神の国にある“永遠の命の充満”へ向かうものです。人生は、死で終わるものではありません。死の向こうにある“永遠の命”を望むだけでなく、その命を手付金として、信仰によって、“今”受け取ります。これが洗礼の秘跡です。洗礼は信仰によって、永遠の命を前もって頂く《神の恵み》です。洗礼を受けた信者は、この恵みによって「死から命に移っています」ので、死で終わる人生のベクトルを歩むのではなく、常に死から命に向かうベクトルを信仰によって生きるように招かれています。

私たちキリスト信者も、この世の死で終わるベクトルに心が膠着せず、死から命に至るベクトルをキリストの言葉からくみ取りましょう。ヨハネ福音書の6章、ご聖体の話しに言及しているイエス様から弟子たちが離れ去ったときにペトロが告白した言葉、「主よ、わたしたちは誰のどころに行きましようか。あなたは永遠の命の言葉を持っておられます。あなたこそ、神の聖者であると、わたしたちは信じ、また知っています」(ヨハネ6:68-69)。

(松田浩一神父 OCD)

## 四旬節 第3主日 (A)

(ヨハネ4 : 5 - 42)

今日の福音朗読では、サマリアの女が井戸に来る前から、イエスは既にそこにおられ、彼女を待っておられます。そしてイエスは彼女に水を求められます。しかし、イエスが本当に望んでおられたのは、渇きを癒す一杯の水以上のものです。イエスは、彼女を永遠に満たす生ける水を与えようとしておられる。その水は、彼女の人生を永遠の泉とする水です。

ユダヤの言葉において、「水」は霊的な意味で用いられていました。それは、神を求める魂の渇きを表しています。水は非常に貴重で、命を与えるものです。聖書における「生ける水」は、命を与える神の姿を象徴しています。さらに、洗礼を受けたすべての人の内には、「生ける水の泉」があります。イエスが語られた生ける水の神学的意味は、預言者たちが語った救いの水を通して理解されます。神から湧き出る生ける水だけが、人の渇きを真に癒すことができるのです。イエスはすべての渇きを癒す生ける泉であり、「わたしが与える水を飲む者は決して渇くことがない」と言われました。イエスこそ生ける水であり、そのメッセージは光であり命です。イエスは、私たちのあらゆる憧れ、渇き、飢えを満たしてくださる方です。

イエスとその御言葉に全面的な信頼を置いたサマリアの女から、私たちは、イエスにすぎり、彼を信じる者は新しい創造となり、変えられ、変容された人間となることを学びます。サマリアの女は、イエスとの出会いの後、神に完全に身を委ね、新しい人生の意味を見だし、イエスのメッセージを伝える者となりました。

四旬節の使命とは、主との出会いであり、主との対話、そして主における新しい命です。この福音の物語は、イエスがどこにいても私たちを待っておられることを教えています。イエスは私たちを探すことに決して疲れることはありません。愛しておられるからこそ、御父のように私たちを見守ってくださるのです。これこそが、イエスがもたらされた福音、すなわち良い知らせです。神は私たちを深く愛しておられ、いつも私たちと共にいることを望んでおられます。

キリストなしのキリスト者の生活は空しいものです。キリストこそ「生ける水」の源であり、その霊は私たちに命を与えます。それは、無私の愛と奉仕の霊です。キリストは、ご自分のもとに来るすべての人の渇きを癒してください。キリストとの一致は、人生の充満を意味します。この確信から、パウロはこう言いました。「わたしにとって、生きることはキリストであり、死ぬことは利益なのです」(フィリピ1・21) この確信を、私たち自身のものとしましょう。

(Sr. ポーリン)

## 四旬節 第4主日

(ヨハネ9：1-4 1、ルカ9：1、6-9、13-17、34-38)

今日のみことばですが、長い箇所(9章全て)と短い箇所(上記参照)があります。長い箇所を見てゆくことにしたいと思います。イエスが生まれつき目の見えない人の目を開けて下さった…目を癒された出来事が事細かに記されてゆき、語られていきます。

弟子たちはイエスに尋ねました。この盲人が生まれつき目が見えないのは、誰が罪を犯したからなのかと。…というのも病というものには罪を犯したから、その結果であると一般に広く信じられていたからです。するとイエスはお答えになられます。本人がでも両親が罪を犯したからでもない。神の業がこの人に現れるからである…と。

そして唾で土をこねてその人の目に塗り、シロアムの池に行き行って洗うようにと言ひ、その人はイエスの言葉に従ひ、目が見えるようになって帰ってきました。でもその日は安息日だったこともあってか、ファリサイ派やユダヤ人たちは、イエスが神のもとから来た者ではないという者もあり、盲人が目が見えるようになったことを信じなかった。

これに対し目を癒された人は、人から尋ねられた際「あの方は預言者です」と言ひ、人々とのやり取りの中で、神をあがめ、神は御心を行う人の言うことはお聞きになるということ、あの方が神の元から来られたのでなかったなら、何もお出来にならなかったはずということの人々の前で語り、そのことによってユダヤ人たちからその場から追い出されてしまうこととなります。

イエスとの出会いがあり、そしてイエスとの触れ合いがあり、それは身体的な接触に留まらず、心の触れ合いもあったのでしょうか。そしてイエスの言葉に従うことにより生まれつき見えなかった目が見えるようになり一神の業がその人に現れたわけです。

追い出された彼は、再びイエスと出会い、人の子を信じるかとのイエスの問いに対し、その方を信じたいと述べます。そしてイエスが人の子はご自身であることを明かされて、彼は「主よ、信じます」…と信じる者へと変えられてゆきました。

イエスと出会い、イエスと触れ合い、イエスに従うことによって、神の子を見出し、神を見出し、信じる者へ変えられてゆく者もあれば、頑なさのうちに留まり、神の子、神を見出すことができない人もいます。イエスの到来によって、私たちがどのように生きるか神と向き合うか、神に向き合うかということが問われているようにも思います。

四旬節、祈りと償いの回心の時を歩んでいる私たちですが、罪から離れて歩むことで、神の子、神を見出し、神の子としてふさわしく歩んでゆくことができますように。

(Fr. 古川利雅)

## 四旬節 第5主日 (A)

(ヨハネ 11 : 1 - 45)

「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない」

本日の福音は、ラザロの復活の物語です。イエスは復活であり、命です。主を信じる者は永遠に生きます。

死は、意識しているかどうかにかかわらず、私たちにとって神秘です。私たちは日々、死と向き合い、毎分ごとに少しずつ死に近づいているとも言えるでしょう。自分の命が永遠には続かず、いつか必ず死を迎えることに私たちは気づきます。「わたしは復活であり、命である」というイエスの言葉は、ご自分の復活だけではなく、主を信じるすべての人の復活について語ったものです。

命の与え主である神は、私たちが御子によって命を得るために、御子をこの世に遣わしてくださいました。ですからキリストに従う者は、死を恐れる必要はありません。イエスは永続的に死に打ち勝ち、人間にとって悲劇である死を、栄光に満ちた始まりへと変えてくださいました。主は、「わたしを信じる者は決して死なない」と言われます。

この福音は、友人ラザロをこの世の命へと呼び戻されたイエスが、永遠の命を与える力の持ち主でもあることを思い起こさせます。これこそ私たちの希望の源であり、死の闇の中の光です。キリストがご自身の死と復活によって罪と死に勝利を収めたことをあなたは信じますか？

マルタは、日々の生活の中で私たちが見ならうべき信仰の模範です。「あなたが世に来られるはずの神の子、メシアであるとわたしは信じております」と告白したマルタとともに、私たちも神と主イエス・キリストへの信仰を告白しましょう。死者の復活と永遠の命を信じる信仰を宣言する必要があります。ラザロは、イエスが愛しておられるすべての人を表しています。ラザロは、あなたであり、私でもあるのです。

*(Sr. Paulina)*

## 受難の主日

(マタイ26:14-27:66)

…彼ら(ローマ兵たち)はイエスを十字架につけると、くじを引いてその服を分け合い、そこに座って見張りをしていた。…さて、昼の十二時に、全地は暗くなり、それが三時まで続いた。三時ごろ、イエスは大声で叫ばれた。「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」。これは、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。…イエスは再び大声で叫び、息を引き取られた。

そのとき、神殿の垂れ幕が上から下まで真っ二つに裂け、地震が起こり、岩が裂け、墓が開いて、眠りについていた多くの聖なる者たちの体が生き返った。そして、イエスの復活の後、墓から出て来て、聖なる都に入り、多くの人々に現れた。百人隊長や一緒にイエスの見張りをしていた人たちは、地震やいろいろの出来事を見て、非常に恐れ、言った。「本当に、この人は神の子だった」。

【み言葉を黙想する】

受難の主日から聖週間が始まります。今日の受難の主日は、マタイ福音書を中心に展開していきます。ミサの前にマタイ福音書が朗読されますが、イエス様をお迎えするエルサレムの人たちが、“ホサンナ”と歓迎します。「ダビデの子にホサンナ」と叫び、「この方はガリラヤのナザレから出た預言者」であり、申命記の記述通り、預言を成就するために、十字架の死に身を渡す。そして復活する。聖週間は、「預言の成就」の出来事としてマタイ福音書を通して私たちを招いています。

さて、もう一つは、マタイの受難は、マルコ受難の物語と重複していますが、マルコとマタイの視点が違うといえます。マルコの受難はケリュグマ、すなわちイエス・キリストは死んで復活したという教会の信仰簡条の出来事です。すなわち預言の成就ですが、同じ預言の成就でもマタイの受難は、新しい信仰共同体の誕生としての受難、共同体的刷新の受難といえることができるものということです。マタイ共同体に対する教えであり、古い信仰共同体・律法を軸とした共同体から、“神の愛と憐れみ”に生きる共同体への移行である“死”と“復活”ということです。律法の非人間的、神に近づかれない不在の信心から、人間的肉の心・生ける神への信心が働く“信仰”を注ぐことにあるのでしょう。マタイ福音書の洗礼者ヨハネのイエスの紹介は、「霊と火による洗礼を授ける方」、すなわち、石の心を肉の心に変え、神の愛の火(聖霊)を注ぐ方です。キリスト教共同体は、肉の心、神の愛の心を持つ人々の集まりを示したかったようでもあります。マタイの受難は、詩編22の「わが神、わが神」というイエスの祈りが天の扉をたたいているようですが、死者と病者などの「ゆるしを願う人々の代弁」としての祈りとも言われます。事実、この詩編の祈りの最後の方に次のように書かれています。

25 主は貧しい人の苦しみを決して侮らず、さげすまれません。

御顔を隠すことなく助けを求める叫びを聞いてくださいます。

26 それゆえ、わたしは大いなる集会であなたに賛美をささげ

神を畏れる人々の前で満願の献げ物をささげます。

イエスの死と共に聖所の垂れ幕が裂け、死者が復活する現象をマタイは書いていますが、憐れみの大祭司の祈りが天の扉を開く光景に見えるのも、神のみ心をもつイエス様の祈りのおかげでしょう。

(松田浩一神父 OCD)

# 跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。

<< Communications (時事通信) >>

2026年1月12日

## 跣足カルメル在世会 世界大会 開催



跣足カルメル在世会の世界大会は、2026年7月23日から26日までスペインのアビラで開催されます。この大会には世界中から約1,000人が参加する予定です。

大会のテーマは「神の体験の証人たち:そのアイデンティティと使命」で、その目的は次の通りです:

- ・跣足カルメル在世会の霊性とカリスマをより深く知る。
- ・世界のさまざまな地域の、跣足カルメル在世会共同体間の交わりを強くする。
- ・共同体での経験や養成を共有する。
- ・十字架の聖ヨハネの列聖 300 周年と教会博士宣言100 周年を記念して、十字架の聖ヨハネに敬意を表す。
- ・跣足カルメル在世会の霊的遺産に感謝する。
- ・アビラの文化と修道生活に貢献する。

このイベントは、跣足カルメル在世会の会員が互いに知り合い、信仰を共有し、跣足カルメル会のカリスマを刷新し、会員同志を結びつける兄弟愛の絆を強化する貴重な機会を提供します。

イエスの聖テレサと十字架の聖ヨハネの豊かな霊性に導かれて、参加者は祈りと兄弟的生活を通じて、神との一致に向う旅をさらに深く進めることができます。

詳細については、イベントの下記のウェブサイトをご覧ください。

<https://ocdsavila2026.com>

(訳: 小宮山延子)

# いのちの言葉 3月

起きなさい。恐れることはない。<sup>1</sup>

(マタイによる福音書 17・7)

1

イエスと共に、ペトロ、ヤコブ、ヨハネは高い山に登りました。そこで彼らは、師であるイエスの栄光に輝く姿を目(ま)の当たりにし、イエスをご自分の御子として認める神のみ声を耳にしました。

「神と顔と顔を合わせる」という非常に特別な体験でした。被造物である人間が、神の栄光に輝く姿を目にすることを神は良しとなさいました。恐れおののき地に倒れ伏す弟子たちに、イエスは近づいて、彼らに手を触れ、こう言われます。

起きなさい。恐れることはない。

「起きなさい」という動詞は、「恐れることはない」と同じように、復活を表す時によく福音書に出てくる言葉です。復活したキリストが、空っぽの墓<sup>2</sup>の前で婦人たちに出会った時にも、「恐れることはない」これが最初の言葉でした。イエスの確信に満ちた力強い言葉、そして、み手が弟子たちに触れた時、それは彼らの新たな人生への決定的な瞬間となりました。

時として私たちも恐れや不安に駆られ、困難や試練、希望が見出せないような状況に押し潰されそうになることがあります。そのような時、信仰を証しする熱意・情熱を再び取り戻すためには、自分の力だけに頼ることはできません。私たちもまた、常に私たちに先んじて与えられる神からの恵みに頼らなければなりません。

「誰もが試練に出遭います。失敗、貧しさ、精神的落ち込み、疑い、誘惑など、それはさまざまな姿で現れます。……この世の物質的・個人主義的社会、戦争、暴力、不正も、私たちに恐れを抱かせます。……こうした状況を前にする時、「神の愛は、どこにいつてしまったのだろうか？」という疑念が心に忍びこむことがあります。……しかしながら、真(まこと)にイエスは、あらゆる苦しみの中に入ってきてくださいました。私たちが出遭うすべての苦しみをご自分の身に負われ、私たち一人ひとりと同じようになってくださいました。……イエスは愛でおられます。愛はすべての恐れを追い払うものです。恐れを抱く時、苦しみに押しつぶされそうになる時、いつもそこには隠された「真(まこと)の現実」があります。それは、イエスが私たちの生活の中におられる、という現実です。……イエスをお迎えしましょう。私たちの生活の中に入れていただきましょう。そして、神が私たちに望まれることを行いながら、自分の殻から外に出て、隣人を愛するよう努めましょう。そうすることによって私たちは、あらためて、イエスがどんな時にも愛でおられることに気づくでしょう。そして、弟子たちと同じように私たちも心から「本当に、あなたは神の子です！」(マタイ 14・33)<sup>3</sup>と言えるでしょう。

## 起きなさい。恐れることはない。

神との出会いを人生で経験した人は、神の現存に心を奪われ、み言葉に触れ、癒されました。しばしば、キリスト者共同体の信仰の証しを通して、私たちもこの神聖な冒険に導かれます。起き上がる力を得、自分の殻から外に出て、イエスと共に、兄弟姉妹と共に、再び旅を続ける勇気を見出すからです。

シリア人の若い女性が体験を話してくれました。「昨年末、私の国は極めて困難な時期を経験しました。幾度となく町中が混乱と恐怖に襲われ、家族、友人、私自身も一体これからどうなってしまうのか、不安でたまりませんでした。このような状況の中、私は神に信頼し、どんなことがあっても希望を失わないよう努めました。これらの出来事が起こる少し前のことでしたが、福音を生きる私たち若者のグループは、食料品の支援を通して、困窮する家族を助けようといくつかの計画をたてました。

しかし今回のことで状況が一変し、私たちはすべての活動を中断せざるを得ませんでした。数日後、ようやく仲間たちと連絡がとれ再会し、そこで互いに力と勇気を見出すことができました。恐怖に押しつぶされることなくイエスに信頼し、仲間たちと一緒に再びこの道を歩み続ける決意を新たにしました。互いに信仰を分かち合い、力を合わせながら、私たちは支援を必要とする 40 家族余りに手を差し伸べることができました。神の愛とお互いの間に一致がある時、たとえどんな状況に置かれていても、そこに変化をもたらすことができるという体験をしました。」

## 起きなさい。恐れることはない。

私たちはイエスと共に山に登り、神と出会い、そのみ声を耳にした後、再びイエスと共に山を下り「疲れている人、病気の人、不正、無知、物質的・精神的貧困に押しつぶされる多くの兄弟姉妹に出会うために平地に戻る」<sup>4</sup>ことができます。

キリスト者共同体であってもむろん、苦しみや迷いはありますが、今月のみ言葉は、「私たちがいただいた神との経験の実り・恵みを互いに分かち合うことで、すべての人にその実りをもたらす」<sup>5</sup>ようにと、私たちを力強く招いてくれます。

レティツィア・マグリと「いのちの言葉」編纂チーム

\*いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

連絡先: フォコラーレ 東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail: tokyofocfem@gmail.com

ホームページ: <https://www.focolare.org/japan/>



<sup>1</sup> 日本聖書協会「新共同訳」

<sup>2</sup> マタイ 28・10；28・5 参照

<sup>3</sup> キアラ・ルービック「いのちの言葉」2002年8月

<sup>4</sup> 教皇フランシスコ 2014年3月16日「お告げの祈り」参照

<sup>5</sup> 同上

# カルメル誌 新刊案内



## 2025年 冬号 No.399

《希望は欺かない—2025年通堂聖年の中で—(4)》

神の愛に希望を置く  
—十字架の聖ヨハネの教え(2) 九里彰

テレーズと希望—あきらめない」という選択  
片山はるひ

\*\*\*\*\*  
カルメルの外のカメル

—教会の外から見られたアビラの聖テレジアと  
十字架の聖ヨハネ(12) 鶴岡賀雄

この道はいつか来た道—人生の秋に幼子イエスを  
拝みにベツレヘムへの道 伊従信子

教カトリック信仰のシンプルさ  
—第一回「お告げの祈り」の豊かさ 田畑邦治

風に吹かれて再び(14)—琵琶湖愛惜 原 造

霊的研究会講義録(30)—聖書・祈り・愛について  
奥村一郎

## 2025年 四旬節特集号

「聖年に祈る」  
「希望の巡礼者となるために」

絶望の体験から  
—二人のテレジアの霊的起点 中川 博道

イエスのみこころと全人類  
—巡礼、シバドス、ニカイア公会議、新回勅  
の連続性  
サレジオ会 阿部 仲麻呂

レビ記、神の励ましの声を聞く 志村 武

信仰生活の再構築 和田 誠

ご案内 1冊 580円 A5サイズ 50~70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・  
各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、1冊 580円 (+送料 140円) を下記へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費 (年5冊: 春夏秋冬+特別号 計 3,600円) を  
下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

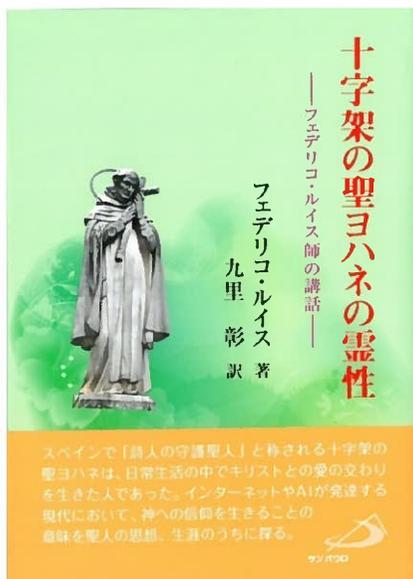
●お問い合わせは、事務担当: 内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又は e-mail で。  
〒159-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.jimu@gmail.com

## 書籍紹介

十字架の聖ヨハネ理解のための

待望の書 翻訳刊行



## 『十字架の聖ヨハネの霊性』

フェデリコ・ルイス師の講話  
〈十字架の聖ヨハネ・霊性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス

訳者：九里 彰

判型：B6 判並製

ページ数：184 ページ

価格：本体 1,600 円+税

ISBN：978-4-8056-3918-4 C0016

発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた聖人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットやAIが発達する、「霊性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、霊性を正しく理解することの基礎となっていくます。

フェデリコ・ルイス・サルバドル

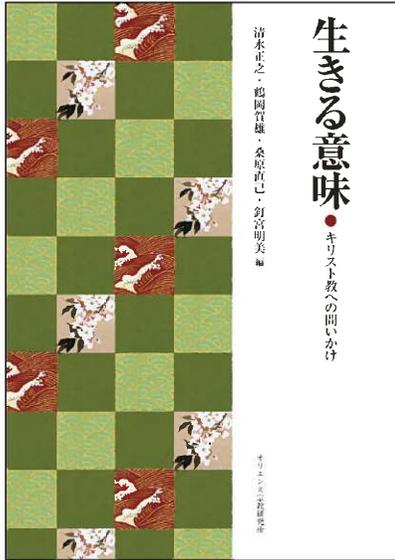
1933年スペイン、バレンシア生まれ。1950年跣足カルメル修道会入会。

1957年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジアヌム教授。

2018年10月27日マドリードにて帰天。享年85歳

九里 彰

カイルメル修道会司祭。1981年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990年カルメル会入会。1997年司祭叙階。1999~2002年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長



# 書籍案内

## 生きる意味

### ●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

#### ———目次———

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
  - 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
  - 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
  - 4 脱原発の倫理／久保文彦
  - 5 何のために働くのか／神谷秀樹
  - 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
  - 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
  - 8 関係の倫理学／清水正之
  - 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
  - 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
  - 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
  - 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
  - 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

# 愛と英知の道

—すべての人のための霊性神学—

ウィリアム・ジョンストン 著

監訳 九里 彰  
 岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生涯の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにしておられる方々にも、本書を勧めています。



ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を上智大学などで講じるがたわら、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。パドロー・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、速藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。

- 第一部 キリスト教の伝統
  - 第1章 誓 愿(1)
  - 第2章 誓 愿(2)
  - 第3章 理性対神秘主義
  - 第4章 神秘主義と愛
  - 第5章 東方のキリスト教
  - 第6章 愛を通して生まれる英知
- 第二部 対 話
  - 第7章 科学と神秘神学
  - 第8章 修徳主義とアジア
  - 第9章 神秘主義と根源的なホムベキ
  - 第10章 英知と(空)
- 第三部 現代の神秘的な旅
  - 第11章 信仰の旅
  - 第12章 浄化の道
  - 第13章 暗夜
  - 第14章 (愛のうちにある)
  - 第15章 花嫁と花婿
  - 第16章 一 致
  - 第17章 英 知
  - 第18章 活 動
  - 第19章 社会活動の神秘主義

# 新刊紹介

## 聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた ニコラオ・プレシエル神父の講話 II ロザリオの祈り



Chrysostomus  
小野崎良子 編

## ロザリオの祈り

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた  
ニコラオ・プレシエル神父の講話 II

【出版社】 教友社

【著 者】 小野崎良子：編

価格 1,650 円（税込）

品番/ISBN: 9784907991807

発売/発行年月: 2022 年 3 月

判型: A5

ページ数: 184

中川博道師  
(カルメル会)  
《推薦》

聖母マリアは、「イエスを愛し、信じて生きるキリスト者の典型・模範」です（教会憲章 53 番）。ニコラオ師はロザリオを通して、日々私たちが、イエスの神秘をマリアとともに生きる道をわかりやすく説明してくださりました。

教友社の定価 (1,500 円＋税)

「ニコラオ神父様が、ロザリオの祈りを捧げながら歩いているときに、突然十五の玄義の流れが鮮明に示され、ご自分の中でまとまったその内容をわたしたちに語られました」（「はじめに」より）。ニコラオ師亡き後、師の薫陶を受けた信徒たちによって記録された講話が 1 冊の本に。中川博道師（カルメル会）推薦。

### 小野崎 良子(おのぎき・りょうこ)

1950 年夕張市大夕張の炭鉱の町に生まれる。小学 4 年生の時、「クリスマスにはプレゼントがもらえる」という級友の誘いに乗り、高校卒業まで熱心にカトリック教会に通う。その後地元を離れ旭川の学校に進学。青春を謳歌する日々の中、ふと感じた「空虚さ」を確かめるために再度教会(大町教会)を訪ねる。そこでニコラオ神父様に出会い受洗にいたる。

39 年間の教職生活を終えた後、ラジオで流れたキャロル・サック 宣教師の歌とハーブに触発され、日本福音ルーテル社団主催「リラ・プレカリア(祈りのたて琴)研修講座」にて 2 年間の養成を受ける。現在は求めに応じて、病床にある方、高齢者などを訪問し歌とハーブによる祈りをお届けしている。

### ニコラオ・プレシエル神父

1921 年、(旧)チェコスロバキアに生まれる。1940 年、ドイツ軍無線通信兵として従軍。

1946 年、フランシスコ会に入会(ドイツ・フルダ管区)し、1952 年、司祭に叙階される。

1953 年、来日。1956 年、カトリック名寄教会着任。以後、美唄教会、大町(旭川)教会、枝幸教会、稚内・枝幸教会、富良野教会にて司牧。

2001 年以後、フランシスコ会札幌修道院、月形町藤の園にて療養する。

2007 年 1 月 6 日、月形町藤の園にて帰天(85 歳)。



**第2版  
好評発売中!**

## 福者マリー=ユジェーヌ神父に導かれて 十字架の聖ヨハネの ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価**540**円(税込)

【聖母文庫】 **287**



マリー = ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ  
を生き、体験し、確認した教えなのです。  
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの  
教えは現代の人々にも十分適応されます。  
また、神の命を伝え、実践的手段を示して  
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の  
配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

## 神と親しく生きる いのりの道

福者マリー=ユジェーヌ神父とともに

R. ドグレール / J. ギシャル 著

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】 **246**

定価**540**円(税込) 209頁



## わたしは神をみたい いのりの道をゆく

マリー=ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

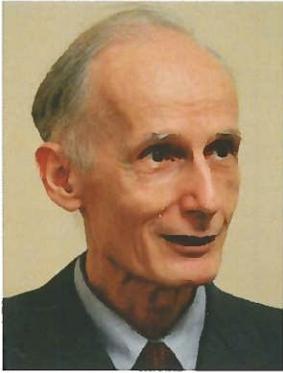
ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】 **268**

定価**648**円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

**聖母の騎士社** ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1  
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340



**クラウス・リーゼンフーバー小著作集**  
**(全五巻) 四六版・434頁～628頁**  
**各巻 本体 3,800～5,000 円+税**

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と靈性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、靈的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	<b>I 超越体験 一宗教論</b>	定価(本体+税)
	宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	9784862852151 3,800 円+税
第2巻	<b>II 真理と神秘 一聖書の黙想</b>	
	日常生活を貫いて人間とかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	<b>III 信仰と幸い 一キリスト教の本質</b>	
	主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」とおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と靈性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	<b>IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論</b>	
	古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに広げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	<b>V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践</b>	
	信仰との関わり合いの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

●リーゼンフーバー、クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(-2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

**知 泉 書 館** 〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166  
<http://www.chisen.co.jp>

## カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

**Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum**

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



## 東京 上野毛 霊性センター

黙想企画 \*\*上野毛 聖テレジア修道院(黙想)\*\*  
(2025年5月～)

- ・聖書深読黙想会(土曜日18時～日曜日16時) カルメル会士

2025年

5月24日(土)～25日(日)

7月5日(土)～6日(日)

9月6日(土)～7日(日)

11月29日(土)～30日(日)

2026年

1月17日(土)～18日(日)

3月7日(土)～8日(日)

- ・奉獻生活者のための黙想会(初日18時～最終日朝食) カルメル会士

2025年 8月16日(土)～25日(月)

2025年 12月26日(金)～2026年 1月4日(日)

★教会の祈り(時課の祈り)を軸とした 黙想の場を提供いたします。

### 【ご利用に際して】

- ・介助やサポートなしで生活できる方。
- ・上記に抵触する方はお問合せ下さい。
- ・個人の場合はご家族・ご親族に、奉獻生活者の場合は長上にお申込者の状況をお伺いした上で、利用をご遠慮願う場合もありますのでご了承下さい。
- ・部屋は2・3階でエレベーターはありません。階段をサポートなしに1人で昇り降りできない方はご利用いただけません。



- \* 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- \* こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です（グループ、個人いずれも）。お気軽にお問い合わせください。
- \* 間違いを避けるため、お問い合わせは FAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂けますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール： [mokusou\\_kmng@carmel-monastery.jp](mailto:mokusou_kmng@carmel-monastery.jp)

ホームページ： <http://www.carmel-monastery.jp>



## 宇治カルメル会 黙想会案内 (2026年～)

**4月からの予定は決まり次第、宇治カルメル会  
ウェブサイト等にてお知らせいたします**

**【一般のための黙想】** 1泊2日 (土曜 午後5時～日曜午後4時) 中川博道神父  
5:30 サルヴェ・レジーナ (修道院) から開始

2026年 3/7—8 (キャンセル待ち)

**【聖書深読】** (土曜午前10時～午後4時) 中川博道神父

2026年 3/14

**【水曜黙想会】** (午前10時～午後4時) 中川博道神父

2026年 3/11

**【祈りの学校】 総合編 (木) 午前10時から** 松田浩一神父

2026年 3/5

**【カトリック信仰生活の学び舎】**

《カテキズムに基づく》(火) 午前10時から 松田浩一神父

2026年 3/10

**【奉献生活者の黙想】** (午後5時～午前9時) 一般参加可

2026年

3月18日(水) 夕食～27日(金) 朝食 中川博道神父

**【ゴールデンウィーク黙想会】** 中川博道神父

**2026年**

**5/1 (金) 夕食～5/6 (水) 昼食まで**

**全日通しでも途中からでも自由参加**

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会も歓迎いたします—

☆お申し込みはEメール、FAX、はがきで

お名前と連絡先をご記入の上、お申込み下さい。

お電話は午前10時～午後4時の間にお願ひ致します。

受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、  
お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願ひ致します。

聖書は各部屋に備えております。

またタオル類も準備してありますが、各自持参してもかまいません。

浴室にボディソープ・シャンプー等はございますが

浴衣やブラシ・歯ブラシ等はございませんので、各自でお持ちください。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

Tel 0774-32-7016 Fax 0774-32-7457

E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

〈カルメル修道会日比野修道院、講座、黙想企画〉

## 【静修の集い】

2026年4月11日（土）10：00～15：00

講話担当司祭：松田浩一神父（カルメル修道会）

テーマ：十字架の聖ヨハネにおける“美の道”についての一考察

スケジュール：講話①、ご聖体顕示、昼食、  
講話②、ミサ、茶話会

参加費 無料（自由献金をお願い致します）。  
どなたでもご自由にご参加ください。

持ち物 昼食（各自持参）

問合せ 日比野修道院（052-671-1003）

場所：跣足カルメル修道会日比野修道院（カトリック日比野教会）

# 諸所の企画案内



## 真命山 霊性交流センター 慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。  
記載には注意を期しておりますが、  
詳細は各問い合わせにご照会下さい。  
よろしくお願い致します。

テーマ「祈りの人々と出会う」  
「主はご自分の親しい人々にみ旨を示される」  
(詩編25章14節)

毎月第2木曜日(10:00~15:00)  
予約は前日の16:00まで

- 1月 8日 アブラハム：執り成す人 「アブラハムは主の前にとどまった…」  
2月 12日 モーセ：呼びかけに応える人 「ここにおります…」  
3月 12日 ダビデ：悔い改める人 「神よ、わたしの罪をぬぐってください…」  
4月 9日 エリヤ：沈黙の中で神に出会う人 「静かなささやきの声があった…」  
5月 14日 ハンナ：感謝に満ちた母 「わたしの心は主によって喜び踊る…」  
6月 11日 エレミヤ：神と格闘する預言者 「主よ、あなたに惑わされました…」  
7月 9日 エステル：民のために立つ人 「わたしのために祈ってください…」  
8月 休み  
9月10日 ヨブ：神の神秘において神を認める 「あなたのことを耳にしていましたが…」  
10月 8日 聖フランシスコ：すべての造られたものと 祈る人。  
「いと高き、全能の、善い主よ…」  
11月12日 ザカリアとエリサベト：神の訪れ気づく人々 「主はほめたたえられよ…」  
12月10日 マリア：心に言葉をたたえる人 「わたしの魂は主をあがめ…」



・個人またはグループでの黙想会  
研修会も歓迎いたします(要予約)

申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦

1391-7

e-mail: [shinmeizan@gmail.com](mailto:shinmeizan@gmail.com)

[www.shinmeizan.com](http://www.shinmeizan.com)

Tel:0968-85-3100

Fax:0968-85-3186

# 祈りの集い

～沈黙の内に神を求めて～

「祈りの集い」の前半では、「祈りについての講話」をいたします。現在は、ウィリアム・ジョンストン神父の著作『愛と英知の道 ――すべての人のための霊性神学』(2017年、サンパウロ社)を少しずつ読みながら、祈りについての理解を深めて行きたいと思います。

後半では、すべての存在、私たち一人ひとりを支えておられる、憐れみ深い神の前に自分を置き、沈黙の内に祈っていきます。



場所: イグナチオ教会岐部ホール 404 号室  
(JR・地下鉄丸ノ内線・南北線四ツ谷駅徒歩 1 分)

**次回の予定: 3月26日(木) 13:30～15:30**

2026 年度スケジュール

1月22日、3月26日、5月28日、7月23日、9月24日、11月26日

主催: 慈しみ深き会

指導: 九里 <sup>くのり</sup> 彰神父(カルメル修道会)

\* 参加費無料(献金歓迎)

\* 問い合わせ先: 042-473-6287 篠原(11:00～20:00)

# 『靈性センターニュース』

## \* 郵送終了のお知らせ \*

『カルメル靈性センターニュース』はWeb掲載移行に伴い、  
冊子の発行を終了しております。

これまで月刊誌として郵送を行って参りましたが、今後は  
Webにてご覧下さいます様、お願い致します。

宇治カルメル会修道院ホームページ

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

「カルメル靈性センターニュース」(PDF)をクリック  
過去のバックナンバーも揃って掲載しております。  
どうぞご利用下さい。

また引き続きご献金もお願いしております。

郵便番号口座： 00910-6-333184  
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12  
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」  
Tel:0774-32-7456  
Fax:0774-32-7457  
[reisei@carmel-monastery.jp](mailto:reisei@carmel-monastery.jp)

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会  
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています

## あとがき

最近、「アンラーニング」という言葉に出会って、新たな思い巡らしが始まっています。新聞の特集記事の見出しに次のような言葉を見つけました。

「過去の価値観、手放そう」

「シニアや転職者『アンラーニング』（unlearning）」

「アンラーニングとは、固定概念や成功体験を手放し、新たなスキルや考え方を取り入れる土台をつくる」（日経新聞 2026 年 2 月 17 日（火）夕刊）とありました。辞書で「unlearning」を調べると「学習解除：先行の学習の結果を解消すること」と訳されています。

これは、単なる「忘れること」ではありません。むしろ、自分の中に深く根づいた前提・思い込み・過去の成功体験や習慣的な理解の枠組みをいったん手放し、新しい理解や行動の可能性を開くプロセスです。変化の激しい社会で、人間がどう生き延び、創造し、つながり直すかという課題に関わっている事です。真の現実、真実に立ち帰っていくアンラーニングの発想は歴史・哲学・教育・宗教など共同体の未来と響き合う形で、立体的に取り入れていく歩みです。

21世紀を迎え、カトリック教会は「生きる神」に立ち帰る「靈性」を「時のしるし」と見ています。

アンラーニングの中で愛である神に立ち帰ることを通して、真の「メタノイア」、今までの思い込みを捨て、神の呼びかけに応える歩み（回心）が生きられるように思います。

（中川博道 o.c.d.）

